教団新報

定　価　1部180円（本体164円〒共243円）
予約購読料　1年分　〒共　5,350円
紙代のみ　3,750円
振替 00140－9－145275
本紙を購読ご希望の方は、前金をそえて、お近くのキリスト教書店へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所　日本基督教団
169-0051　東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内　電話03（3202）0546
FAX03（3207）3918
URL http://uccj.org
発行人　秋山　徹
編集主筆　嶋田恵悟
印刷所　株式会社きかんし

第42総会期第3回 常議員会

雲然議長が課題と取り組みを提言

教団総会から付託された歳入歳出 決算・予算を承認

第42総会期第3回常議員会が12月5～6日、教団会議室にて、常議員28名が出席して開催された。2回の書面決議を経て、今総会期最初の対面での会議となった。

冒頭、雲然俊美議長が挨拶し、常議員会の開催方法について、緊急の場合を除き常議員は対面での出席のみとし、陪席者はオンライン参加も可とすること、今総会期の課題と取り組みについて夜に協議会を持つこと等を告げた。

第42回教団総会に関する件では、総会を振り返り、議事の取り扱いについて多くの時間が割かれたことを受けて議事規則の変更を求める意見や、大声での不規則発言を放置しないことを求める意見があった。

教団総会に関して出された三つの抗議、質問（大阪教区、九州教区、豊岡教会）を扱った。大阪教区から、常置委員会が総会に提出した3議案が、第22回常議員会において否決された理由を問われた点について、「戒規撤回を求める議案以外の二つの議案は形式が整っており、総会議案としなかったのは間違っていた」との意見があった。九州教区から、伝道資金規則改定議案を予算案に対して先議しなかった理由が問われた点について、「予算案に関わる内容でもあり、予算と同時に上程すべきものだった」との意見があった一方、「予算変更を、数字を示して提案する議案ではなく、議事進行に誤りはない」との意見もあった。出された意見を踏まえつつ、三役が責任を持って応答することとなった。

総幹事報告では、秋山徹総幹事が報告。第42回教団総会について、教団歳入歳出経常会計で50万円の誤差が生じ、常議員付託となったことについて「事柄を重く受け止めている」と述べた。質疑の中で、新報4985号の「人ひとときき」について、「陛下」が用いられたことにつき「編集の段階で配慮することは出来なかったのか」等の意見があった。

常任常議員選出では三役提案に基づき、教団三役の他、高橋潤、岡村恒、藤掛順一、田口博之、高橋嘉男、八嶋由里子、河田直子を承認した。

常設委員・常設専門委員、宣教研究所委員、伝道推進室委員選任に関する件では、選考委員会の選考結果に基づき委員を承認した。選考結果に対しては、複数の教区議長から、「教区から推薦した者が一人も入っていない。教区を尊重し、多様な意見を入れる姿勢がない」との指摘があった。

「2023年春季教師検定試験合格者承認に関する件」と「教師転入に関する件」では、三役一任とすることが提案されたが、常議員会で審議すべきとの意見があり、臨時常議員会を3月27日にオンラインで開催することとした。

第42回教団総会から付託された、19年度～22年度教団歳入歳出予算および決算、23年度教団歳入歳出原予算を扱った。19年度から20年度にかけて、繰越収支差額に50万円の差額があったことについて専門家の検証結果に基づき宇田真予算決算委員長が説明した。「2005年度に設定され、資金の動きが無かった備品購入引当金が残っており、20年に解消したことが原因」と述べた。協議の中で、数字に間違いはなく、説明を加えるべきであったことが確認され、議案を賛成多数で承認した。会計事務所からの報告文に、説明を添えて教団新報に掲載することとした。

一日目に行われた協議会での意見を受けて、「日本伝道の推進を祈る日」の取り組み（全国伝道推進献金の呼びかけと「信徒の友」の各教区の記事の掲載）を23年度も継続することが提案され、賛成多数で承認した。

幹事任用に関する件では、大三島義孝幹事を継続して任用することを承認した。

（新報編集部報）

協議会

第42回総会期の課題と取り組みを協議

「第42回総会期常議員会における課題と取り組みについて」と題する雲然俊美議長による発題から協議会が開始された。

まず議長は、常議員会における課題として八つの課題を挙げ、私見を述べた。(1)教団機構改定に関する議論と取り組みについて、新たな検討が必要であるが、まず常議員会で十分議論するところから検討を始めたい。(2)教団財政について、機構改定とは別に財政問題について議論してはどうか。(3)沖縄教区との関係について、沖縄教区の主体性を受け止めつつ、早い段階で教区三役と懇談の時を持ちたい。(4)出版局経営改善の取り組みについて、ステアリング・コミッティの取り組みを注視し、出版局将来検討委員会から出された答申について常議員会で議論したい。(5)「日本伝道の推進を祈る日」の取り組みについては、現在なされている「信徒の友」への掲載と全国伝道推進献金は、現時点ではこの運動を担う委員会が未定のため、2023年3月末で区切りとしたい。(6)大規模災害発生時の対応については、現在なされている対応や教区との連携に加え、事務局が機能しなくなった場合のケアについても考える必要がある。(7)献身者が起こされるための祈りについて、常議員会から何か発信できないか。(8)次回教団総会については7月の段階で日程、会場を決定し、議事進行、特に教区総会決議事項を扱えるように考えたい。

議場からは、特に、(1)と(5)について意見が相次いだ。(1)については、議論が十分にされているとは言えないので、これまでの経緯を含め、次の教団総会への議案化のために学習会等ができないか、等の意見、(5)については、この運動の継続を求める意見が多数出された。議長は、それぞれの意見を三役で受け止め、具体的な提案を出していきたいと答えた。

（小林信人報）

総幹事選任

網中彰子教師を総幹事に選任

二日目終盤に総幹事選任に関する件が上程された。これは第42回教団総会から付託されたもの。三役の推薦を承認する形で網中彰子教師（横浜明星）が新総幹事に選任された。任期は2023年4月1日より第44回総会まで。

雲然俊美議長は推薦の理由として教団事務局職員、NCC総幹事等の職歴から事務の仕事や教団の事情に通じていること、三役と連携が期待できること等を挙げた。

この提案に関して常議員から様々な意見が出た。女性の起用を歓迎し網中教師の事務能力を評価しつつも、牧会経験の少なさを理由に「今ではないのではないか」との反対意見がある一方、「三役の推薦を信頼する」、「召命と受け止めて教会を辞し教団に仕える決意を固めたことを尊重したい」との賛成意見があった。また、「現総幹事選任のときも人選は石橋秀雄前議長に一任だった」との指摘があった。

また今回の選任に際して議場では網中教師の経歴等を記した文書は配布されず、議長が氏名を口頭で述べるにとどまったため困惑の声も上がった。「総幹事は重大な務め。教団の危機的状況の中で泣いて馬謖を斬るような決断のできる人なのか判断できない」、「どのような人か分からず反対も賛成もできない」等の意見があった。これに対して雲然議長は「従来配布してこなかった」、「個人情報を含むものを配布することに躊躇を覚えた」と文書を配布しなかった理由を述べ、議場に詫びた。

その上で、議長は網中教師の熱筆した文章、経歴、顔写真が掲載された伝道推進室のトラクト「わたしだけの誰か」の配布を指示した。さらに「総幹事選任は議長への信任が大きなウエイトを占める」と述べて理解を求めた。また、審議の後に、受洗・准允・按手の年月日・教会等担任歴を記した文書が配布された。

採決の結果28名中21名の賛成で総幹事選任の件は承認された。

（米山恭平報）

お知らせ

「教団新報」今号を4988・89合併号とし、次号は2023年1月28日に発行します。また、教団事務局・出版局は12月29日から1月4日、年金局は12月29日から1月5日まで、カルト問題電話相談（03－3207－8794）を12月28日から1月3日まで休業いたします。

総幹事　秋山　徹

第42総会期第3回

常議員会

今常議員会は、第42回総会後、集って開催された最初の会議であり、多くの人事関連議案を扱った。

人事関連

諸委員会委員、現案通り承認

在日大韓基督教会と日本基督教団との宣教協力委員会委員
雲然俊美、藤盛勇紀、黒田若雄、宣教委員会委員長、在日韓国朝鮮人連帯特設委員会委員長

在日韓国朝鮮人連帯特設委員会委員
宮本義弘、久世そらち、大友英樹、豊川昭夫、遠矢良男

東日本大震災救援対策継続事業委員会委員
藤盛勇紀、田中かおる、佐久間文雄、守安久美子

東北地方地震被災教会会堂等再建支援委員会委員
篠浦千史、奥山盾夫、稲松義人

伝道資金小委員会委員
藤盛勇紀、宣教委員長、伝道委員長、北海教区議長、東京教区議長、西中国教区議長

教師養成制度検討委員会委員
菅原力、雲然俊美、服部修、東野尚志

牧会者とその家族のための相談室委員
加藤幹夫、吉澤永、竹村員知子、石丸昌彦、藤崎義宣

教団関係学校及び関係団体理事・評議員
三役一任

「隠退教師を支える運動」推進委員
【委員】鈴木秀信、山田昌人、滝川英子、八嶋由里子、須田静代、小笠原務、東隆義
【監事】大三島義孝、河村富雄

各センター運営委員会委員
「愛知老人コミュニティーセンター運営委員」
【常議員会承認】鈴木卓也、小田部正一、西村清、小寺英明、牛木恵一、飯田要子
【教団総会議長指名】下村徹嗣、平井章、横山良樹、村山盛芳
「にじのいえ信愛荘」
【教団総会議長指名】佐久間文雄、願念望、鈴木功男、黒沢咲子、尾野明子

【常議員会選任】阪口和美、砂田巳智子、成松三千子、高橋玉代、奥山盾夫、村上信男、境和彦、内堀怜子、西村佳子、山口玲子

常設委員会・常設専門委員会・伝道推進室委員会委員は、選考委員会の選考結果を承認した。また、出版局、年金局、部落解放センター、隠退教師を支える運動の理事・監事は、第二選考委員を選任した上で、選考委員会が一日目議事終了後に推薦した者を二日目に承認した（最終結果を次号に掲載）。

（新報編集部報）

《第42回教団総会》主な総会議事結果

【承認】
8. 教団総会常任委員選任に関する件　選任
［会計監査］服部能幸（招）、宮下重康、長島恵子
9. 宗教法人「日本基督教団」責任役員選任に関する件　選任
［責任役員］雲然俊美、藤盛勇紀、黒田若雄、武田真治、東野尚志、望月克仁、中嶌暁彦
［会計監査］服部能幸、宮下重康
19. 2018年度教団歳入歳出決算承認に関する件
25. 2018年度部落解放センター決算承認に関する件
26. 2019年度部落解放センター決算承認に関する件
27. 2020年度部落解放センター予算および決算承認に関する件
28. 2021年度部落解放センター予算および決算承認に関する件
30. 2018年度出版局決算承認に関する件
31. 2019年度出版局決算承認に関する件
32. 2020年度出版局決算承認に関する件
33. 2021年度出版局決算承認に関する件
34. 2018年度年金局決算承認に関する件
35. 2019年度年金局決算承認に関する件
36. 2020年度年金局財務計画および決算承認に関する件
37. 2021年度年金局財務計画および決算承認に関する件
38. 2022年度年金局財務計画案承認に関する件
39. 2023年度年金局財務計画案承認に関する件

【可決】
29. 2022年度部落解放センター予算に関する件
40. 教団機構改定の目的と課題を確認する件
＊議案第53号、第46号、第47号、第59号を先議し否決。修正案（提案者：小西望）を否決。
41. 教規132条変更に関する件
42. 年金局規定変更および「謝恩金規則」廃止に関する件

【付託】
12. 出版局理事・監事承認に関する件　常議員会付託
13. 年金局理事・監事承認に関する件　常議員会付託
14. 部落解放センター運営委員選任に関する件　常議員会付託
17. 教団関係学校および関係団体理事・評議員等推薦に関する件　常議員会付託
64. 第42回日本基督教団総会議事録承認に関する件　常議員会付託
65. 第43回日本基督教団総会開催に関する件　常議員会付託

【42総会期常議員会に付託】
10. 総幹事選任に関する件　＊42総会期常議員会に付託。
11. 出版局局長選任に関する件　＊42総会期常議員会に付託。選任まで飯光を局長代行とする。
18. 2022年秋季教師検定試験合格者承認に関する件　＊教団総会の日程が早まり試験が終了していないため、42総会期常議員会に付託。
20. 2019年度教団歳入歳出決算承認に関する件　＊内容の精査が必要なため、42総会期常議員会に付託。
21. 2020年度教団歳入歳出予算および決算承認に関する件　＊内容の精査が必要なため、42総会期常議員会に付託。
22. 2021年度教団歳入歳出予算および決算承認に関する件　＊内容の精査が必要なため、42総会期常議員会に付託。
23. 2022年度教団歳入歳出実行予算に関する件　＊議案第49号を先議し否決した上で、内容の精査が必要なため、42総会期常議員会に付託。
24. 2023年度教団歳入歳出原予算に関する件　＊内容の精査が必要なため、42総会期常議員会に付託。

【否決】
46. 沖縄教区選出議員の出席まで、教規変更を伴う教団機構改定の教団総会決議を行わない件〔京都教区〕
47. 教団「教団機構改定に関する検討資料Ⅱ」を破棄する件〔京都教区〕
49. 「沖縄宣教連帯金」に関する件〔兵庫教区〕
53. 「教団機構改定」の議論を直ちに凍結する件〔兵庫教区〕
57. 日本基督教団総会における常議員選挙の投票方法を、無記名半数連記に改める件〔神奈川教区〕
59. 教団機構改定の根幹となる意思を確認する件〔小笠原純〕

【選考委員選任】
15. 常設委員会および常設専門委員会委員選任に関する件
16. 宣教研究所委員選任に関する件
［選考委員］雲然俊美、藤盛勇紀、黒田若雄、田中かおる、岡村恒、田口博之、菅原力、豊川昭夫、守安久美子、河田直子

【議案取り下げ】
43. 教憲9条を改正し、伴って関連教規条項を改正する件〔九州教区〕

【廃案】
44. 伝道資金規則改定に関する件〔九州教区〕
45. 教規61条等の一部を改正する件〔九州教区〕
48. 「日本基督教団『教憲1条』の本旨に沿う教会となるために、教団・各個教会・各教区において教規を正しく解釈し、正しく運用すること」を求める件〔東北教区〕
50. 日本基督教団における同性愛者をはじめとするセクシュアル・マイノリティ差別問題に取り組む〔兵庫教区〕
51. 第41総会期第9回常議員会における『日本基督教団の教師論』承認に関する件（提案者議長）」の承認決議を撤回する件〔兵庫教区〕
52. 第41総会期常議員会の議事運営の誤りについて全教区並びに教団総会議員に謝罪する件〔兵庫教区〕
54. 第75回／「合同」後52回日本基督教団兵庫教区定期総会決議にもとづく教団総会提出議案「沖縄宣教連帯金」に関する件〔兵庫教区〕
56. 聖餐のあり方について慎重かつ十分に議論する場を教団内に設置する件〔神奈川教区〕
58. 伝道資金規則変更に関する件〔小笠原純〕
60. 日本基督教団が地球温暖化防止を宣教の課題とし、日本政府に地球温暖化防止に関わる国際協定「パリ協定」の目標早期達成を原子力発電に依存しないで行うことを要望するとともに、教団内諸教会・信徒が意識を高め、自主的な取り組みを行うことを呼びかける件〔管恒敏〕
61. 日本基督教団教憲第1条及び教規第2条の改定に関する件〔佐久間文雄〕
62. 「合同」特設委員会を再設置する件〔伊藤朝日太郎〕
63. 辺野古新基地建設を直ちに中止するよう求める件〔伊藤朝日太郎〕

【上程せず】
55. 第36（合同後21）総会期（2008年～2010年）日本基督教団教師委員会及び審判員会による北村慈郎教師への免職戒規適用を無効とし、北村慈郎教師の免職戒規撤回を求める件〔神奈川教区〕

「教団新報」2022年11月12日号掲載記事についてのお詫びと訂正

教団新報第4985号（2022年11月12日発行）の「人ひととき」欄に掲載された記事「神の愛を見出しながら」の中で、英国エリザベス女王の国葬の際に皇后が着用したスーツを仕立てられた信徒の方の紹介がされました。その記事の中に、2度にわたって「皇后陛下」との尊称をつけた文章となっていることに対して多くのご批判・抗議が寄せられました。

インタビューをした新報記者および編集者としてできる限り取り上げる人の思いを丁寧に紹介すべく、それを汲み取ってそのような表現としたことは推察されますが、これまで部落解放センターの運動その他を通して天皇制が日本社会の中で差別を生み出す構造的な体質と深く関わっていることを様々な場面で表明してきた教団が、その機関紙である「教団新報」の記事に皇室に属する者に対してそのような尊称を用いることは不必要・不適切であったことを認め、お詫びいたします。「陛下」の文言は訂正・削除といたします。このことは、紹介された方が誇りを持って仕事をされていること、その中で信仰生活を送っておられることについて論難するものではありません。

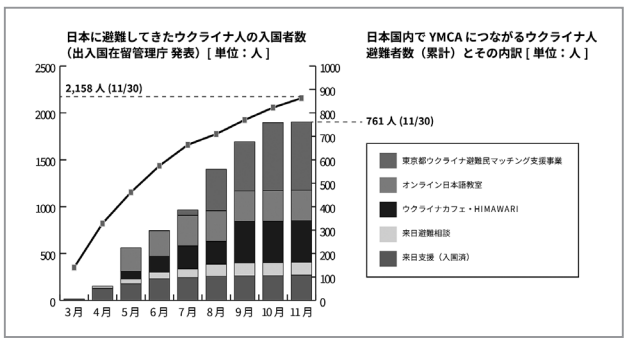
今後、天皇制に関わる記事を掲載するに際して、用語の使用について誤解を招くことのないよう注意が必要であることを銘じます。ご指摘いただきましたことを感謝いたします。

総幹事　秋山　徹

▼日本YMCA同盟ウクライナ避難者支援プロジェクト▼

YMCAだからこそのウクライナ避難者支援

2022年3月よりウクライナから日本に避難してくる人々お一人おひとりに伴走する支援を行ってきました。現在、関係省庁や東京都との連携もあり、761人（11月30日）への伴走支援を実践する国内最大規模の支援団体となりました。支援の内容と形態は時間の経過とともに次のような変化を遂げています。



【第1フェーズ　避難支援】2022年3～4月ごろ

ヨーロッパYMCAと連携し、ウクライナ出国から来日までの支援、空港出迎えや国内移動の補助、ホテルでの隔離、住宅への案内などという一連の支援を継続しています。支援開始時に、一人ひとりに寄り添い伴走していく、というYMCAの姿勢として、「避難民」ではなく「避難者」と呼ぶことにしました。

【第2フェーズ　生活支援】2022年5～6月ごろ

住居手配から保育園探し、日本語学習の機会提供など日本での生活をスタートするための支援を展開しました。また、交流・学びの場「Ukraine Café HIMAWARI」をオープンし、身近なお店で買える食品や清掃用品の使い方を伝える生活講座や無料バザーなどを実施しています。現在はウクライナ語で読める児童書を集めたミニ図書館「HIMAWARI文庫」を併設してカフェの運営を続けています。

【第3フェーズ　個別支援】2022年7月以降

都営住宅などへ個別訪問を実施し、ヒアリングによるニーズ把握と支援策とのマッチング支援を新たに展開中です。病院への同行、子どもの宿題サポート等、各家庭での個別支援から、体調不良につながりやすい心のケアを実践するための取り組みなど、多様な支援活動につなげていきます。

第3フェーズに入った現在では、個別訪問により把握されつつある避難者が抱える課題やニーズへの個別の解決策提示、行政や他団体との連携を含む組織的な取り組みへの提言などを同時に展開しています。特に都営住宅などを訪問しての聞き取りからはさまざまな要因による心身の不調が増えている傾向が見られました。まだ終わりが見えてこない避難生活の長期化からこの第3フェーズを「心の折れる時期」と捉え、メンタルヘルスケアなどを含む新しい伴走支援に取り組んでいきます。

これらの活動は全て皆様からのご寄附によって支えられています。これまでご寄付いただいた皆様への感謝と共に、長期化が予想されるこの活動への継続的なご支援・ご寄附、どうぞよろしくお願いいたします。

（石橋英樹報／日本YMCA同盟ウクライナ避難者支援プロジェクト担当）

教区議長コラム

◆関東教区◆

熊江　秀一

関東教区はカントウ賞！

関東教区は新潟・群馬・茨城・栃木・埼玉の各県を5地区とする140の教会・伝道所からなる。日本海から太平洋に至る広大な面積は北海教区に次ぎ、教区内の人口は17教区最大の1620万人に及ぶ。また過疎地から首都圏、工業地帯や農業地帯、漁業地帯、豪雪地帯や島の教会もあり、教派的伝統も様々である。また小規模教会も多い。その中でそれぞれが覚え合い、支え合い、連帯して宣教に仕えている。

その連帯の柱がナルドの壺献金運動である。一人の女性信徒の提案で始まった運動は今年36年目となる。1日10円の自由献金として捧げられ、ほぼ毎年、目標額が満たされていることは教区の連帯の証しである。今年も1200万円を目標に献金運動に取り組んでいる。この献金は謝儀互助（2022年度は13教会・伝道所）を始め、緊急互助（教師やその家族の急病や様々な緊急支援）、教団年金互助（教団年金への加入支援）、退職金互助（退職金の積み立てのための支援）のために豊かに用いられ、これまでの残金の積み立てはナルド基金として災害時の謝儀支援として用いられている（コロナ禍にも使用）。ナルド献金運動のために宣教部がナルド通信を発行して運動を展開し、またナルド懇談会を開催して互助教会相互と教区の交わりを深めている。

この運動は教区連帯の柱となり、04年の中越地震、07年の中越沖地震、11年の東日本大震災、15年の関東東北豪雨水害、また新潟雪害支援等、教区の災害支援にもつながっている。コロナ禍が続く中でも一つ一つの教会・伝道所が主にあって連帯し、互いに祈り、支え合い、元気に宣教に仕えることが願いである。「忠実な僕よ、よくやった」と神さまからのカントウ賞をいただける関東教区でありたい。

（関東教区議長）

▼EMS総会報告▲

ユースや女性の活躍目立つ

11月15～18日に南西ドイツのシュミッテンで、EMS（福音連帯宣教会）の総会が開催され、教団からは西之園路子がEMS総会議員として出席した。

2年ごとに開催されるこの総会には、南西ドイツの教会関係者の他、アジア（インド、インドネシア、韓国、日本等）、中東（ヨルダン）、アフリカ（ガーナ、南アフリカ共和国）のEMS加盟教会の代表者たち、70名ほどが参加。今年9月に行われたProPro委員会で協議されたEMSの支援先と支援金額もこの総会で可決された。本総会において、インドとインドネシアから各1教会を新たにEMSのメンバーに迎えることが承認された。また、議長団やMission Councilメンバーの選出も行われ、西之園議員はsubstitute（補欠委員）として選出された。教団とPROK（韓国基督教長老会）は、6年任期の委員を3年ずつ交代で担い、現在はPROKの議員が委員となり、教団の議員は補欠となっている。

WCC同様、EMSでもユースたちの活躍が目を引いた。ガーナ長老教会の代表3名の内、1名は22歳の女性だった。また、韓国のPCK（大韓イエス教長老会）の代表3名の内、2名は女性のユースだった。各国の諸教会がこのような国際会議に意識的・積極的にユースや女性を送り出していることを感じる。教団と比べ、多くのユースや女性が議員として参加している会議はうらやましくも思えてしまうが、それでも議場からはもっとユースや女性の議員枠を増やして欲しいとの声が挙がる。ユースたちからはオンライン会議等を用いてでもすぐ実行して欲しいとの要望も出たが、この案件には規約の見直しや変更も必要となり、大切な議題だからこそ、きちんと対面で意思疎通した方が良いとのことで、前向きに検討する方向での継続審議となった。

（西之園路子報）

出版局 正職員（経験者）募集

◎職　　種　定期刊行物（信徒の友、こころの友、教師の友など）編集業務
◎勤　　務　月曜日～金曜日　9:00～17:00（休憩12:00～13:00）
◎待　　遇　当局規定による　社会保険完備、交通費全支給、各種手当、休日＝土日祝日他
◎入社予定　2023年4月以降（応相談）
◎試用期間　3か月
◎応募資格　編集実務経験者で年齢40歳位まで、教会生活を送っている方。DTP経験者歓迎。
◎応募方法　履歴書（自筆・写真貼付）を郵送ください。書類選考後、面接日を通知します。応募書類は返却いたしません（秘密厳守）。
◎入社試験　あり（適性、作文、英語等）
◎募集期間　2023年2月末
◎お問い合わせ・応募先
〒169-0051東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教団出版局　総務課宛
℡ 03-3204-0421（月～金 9:30～17:00）

ウクライナ救援募金期間延長のお知らせ

主の聖名を賛美いたします。

日本基督教団では、一日も早く、ウクライナに平和と、人々の命が守られることを祈り、社会委員会を通して人道的支援のための募金を行っています。

2022年11月25日現在46,704,808円の募金がささげられました。募金額28,987,107円をACT(Action by Churches Together) Allianceに、3,000,000円を日本YMCA同盟に送金いたしました。

つきましては、募金期間を2023年3月末まで延長いたします。ご協力をお願いいたします。

2022年12月12日
日本基督教団社会委員長　森下　耕

◎送 金 先
加入者名 日本基督教団社会委員会
郵便振替
００１５０－２－５９３６９９
（通信欄に「ウクライナ救援募金」とお書きください。）

「兵庫県南部大地震記念の日」追悼礼拝

「ボランティアお断り」
山本光一さん
（隠退教師・元北海教区幹事）

◎日時・場所
2023年1月17日（火）午後6時
日本基督教団 神戸聖愛教会
◎主催・問合せ
日本基督教団 兵庫教区
（℡078-856-4127）
◎オンライン・ライブ映像配信
礼拝ライブ配信用 QRコード　礼拝式次第用 QRコード

事務局報

正教師登録
山田原野（2022・11・13受按）
加藤秀久、髙橋優美子（2022・11・18受按）
大島庄吾、野澤幸宏、稲益久仁子、佐藤彰子（2022・11・26受按）
金　園播、藤本百合子、村越ちはる（2022・11・27受按）

教師異動
勝田台　辞（主）水谷　勤
〃　就（代）澤﨑弘美
飯田馬場町　就（代）丸大　勝
高槻向山　辞（主）館山英夫
共愛学園前橋国際大学　辞（教）野村　誠
十二使徒　辞（代）丸山澄夫
〃　就（代）久世そらち
桜ヶ丘　就（代）山本修一

隠退より復帰
山本修一

お詫び・訂正
新報4986号3面「常議員プロフィール」欄、遠矢良男氏の受洗日、「2月25日」を「12月25日」に、お詫びして訂正いたします。

伝道報告

伝道のともしび

TOMOSHIBI

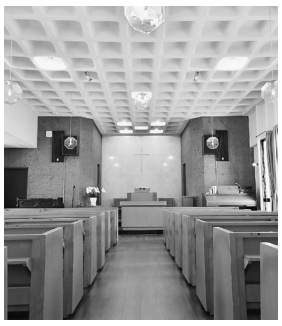
七十二人は喜んで帰って来て、こう言った。…イエスは言われた。「あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」
ルカによる福音書第10章17節～20節

「きらきら・わくわく・のびのび」と

横浜本牧教会牧師・横浜本牧教会附属早苗幼稚園園長　宮川　周子

横浜本牧教会は、アメリカのメソジスト・プロテスタント教会の信仰を受け継いで創設されました。その歴史は、ミス・ガスリーとミス・ブリテンによる日本伝道から始まります。教育を通して宣教をするために、1880年ブリテン女学校（1886年に横浜英和女学校と改称）が創立されました。その後、同教会からクライン牧師が日本に派遣され、1886年7月11日に「横浜第一美普教会（横浜本牧教会）」が誕生します。最初は12名から始まった教会でしたが、その頃教会を支えたのが、英和女学校校長ミス・ハジスや、英和女学校の人々でした。創立当初から英和女学校と横浜本牧教会は、一つの集団と言えるほどつながりがとても強かったのです。

1908年横浜英和女学校附属早苗幼稚園は本牧上台に幼稚園を移し、寄付金を託してくださったシールド氏の名前を取り、「シールド早苗幼稚園」と命名されます。これが現早苗幼稚園の始まりでした。しかし1923年に関東大震災が起こり、園児はほとんど行方不明となってしまいました。そして時代は戦時下へ。1945年5月29日の横浜大空襲にて、会堂、牧師館、幼稚園舎、全てが焼失。会員のほとんども戦災を受けますが、礼拝を守るために人々が一丸となって信仰を守ったのです。1950年9月より伊藤与雄牧師の園長兼任により、横浜本牧の地で本格的に幼稚園の業が開始されました。そして1959年「横浜本牧教会」「早苗幼稚園」と教会と幼稚園が改称され、さらに1972年に新園舎が完成し、現在に至ります。



★

早苗幼稚園は今年で114周年を迎えました。「きらきら・わくわく・のびのび」と毎日を過ごせるよう、「キリスト教教育」・「遊びを重視した教育」・「共に歩む教育」を三本柱として毎日、保育の業に励んでいます。歴史の中で私たちの生活が変化したように、幼稚園の在り方も変化してきました。2015年から「横浜市施設給付型幼稚園」として、預かり保育を導入しました。また、2017年から近隣施設の児童養護施設「日本水上学園」の児童を受け入れています。約1割の子どもたちが在園しています。様々な背景を持った子どもたちです。少しでも安心できる場所・存在として幼稚園が役立てればと思っています。

長い歴史を経て今にいたる私たちの幼稚園ですが、多くの課題が山積みです。特に保護者や教職員へのキリスト教伝道が課題です。それぞれキリスト教保育に理解は示しているものの、なかなか教会につながりません。また少子化により、少しずつ園児数も減少しています。しかしながら援助が必要な子どもの割合は増えていくばかりで、難しい経営が続いています。園長を務めて5年となりますが、今も続くコロナ禍によって「今まで通り」の保育がなかなか出来ません。早く全員で楽しい会食の時を持ちたいと祈るばかりです。その中にあっても、神さまが一番良い道を示してくださると信じ、歴史ある幼稚園の伝統を祈りながら守っていきたいと願います。

▼WCC第11総会オンライン報告会▼

ユース枠代表議員、スチュワードから報告を聞く

11月22日、日本基督教団主催でWCC（世界教会協議会）のオンライン報告会が行われた。WCC総会は今年の8月31日から9月8日にかけてドイツのカールスルーエで開催されている。

西之園路子WCC代表議員はWCC成立の歴史や本総会全体の概略について報告、伊勢希ユース枠代表議員はプレユースでの世界のユースたちとの出会いとその出会いを通し与えられた気づきや恵みについて報告、スチュワードとして参加した内田幸四郎神学生（東京神学大学）は、WCCにおけるスチュワードの働きについて報告した。写真を多用しつつ、それぞれの異なる視点からの臨場感溢れる報告となった。

WCCスチュワードは、世界中の諸教会から集った18～30歳のユースで構成されている。彼らはプレ集会に先んじて現地入りし、WCC総会に向けての諸準備を行い、また一ユースとしてプレユース集会に参加。総会が始まると、受付や入口のセキュリティチェック、会場内の誘導、ヘッドホンセットや資料の配付、会場準備等の奉仕に当たる。スチュワードの多忙な働き無しにはこの総会は成り立たない。そしてこのスチュワードの中から将来の世界の教会を担う者たちが誕生する。現在のWCCのリーダーたちの中にもスチュワード経験者は少なくない。

今回の総会で、日本に一枠与えられているユース枠に教団から代表を派遣できたこと、またスチュワードとして参加するユースが与えられたこと（内田神学生は自ら応募して、スチュワードに採用された）、そしてこのような報告会で二人のユースから報告を聞けたことは、教団にとってもとても喜ばしいことであった。

WCC総会では青年たちも積極的に発言していた。WCC総会で中央委員に選出された150名の内、青年の占める割合は13％、女性は約4割。それでももっと青年や女性の数を増やして欲しいとの要望が出ていた。

（西之園路子報）

ひとときの人

坂部　宏子さん

音楽の力で人々を繋ぐ

坂部宏子さんは北海道・帯広の出身。得意の音楽を生かし教会と地域とに奉仕する。

父親は帯広で小学校教員として勤めていたが、オペラ歌手の夢を追い上京。教壇に立ちつつ週末にアマチュア歌手として活躍したが、戦時の栄養失調がたたり声が出なくなる。この父の無念さが坂部さんの音楽の原動力ともなった。

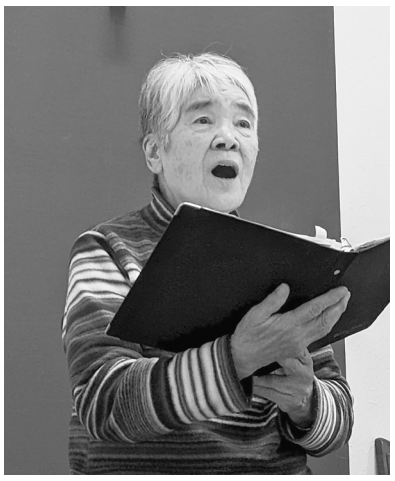
坂部さんは戦後、高校生の時に地元のメノナイト教会で受洗。その後8人家族のうち5人が同じ教会や日本基督教団で信仰に導かれた。

関西でキリスト教を学んだ後に全国の教会を巡り、40代で北海道に戻る。幼稚園の教諭、園長も15年間務めた。

08年、夫婦・娘3人家族の健康のため「気候の温暖な」仙台平野に移住。10年に教団・名取教会に家族で転入会した矢先、東日本大震災に見舞われた。新たな地での信仰の友が津波の犠牲となり、教会は被災した。しかし坂部さんはここでめげない。仙台南部を中心に開始していた歌や趣味のサークルをさらに拡大、10以上のグループを展開する。幼児教育に長く携わったが、高齢者層にこそ学びのニーズがあると読んだ。地元紙の告知欄と口コミを活用し、これまで延べで数百人のメンバーをまとめてきた。

名取教会のある地区は福島第一原発エリアを含む。避難を余儀なくされた伝道所が二つあり、住民が戻り始めた小高地区で19年秋より自由な歌のサークル「サフラン」を展開。仙台の集会は古参メンバーに託した。コロナ禍の中断の後22年春に再開。会場も地区交流センターから小高伝道所に移した。会堂は複数の地域住民グループの交流の場となっている。

80歳の記念に賛美の映像投稿も開始。視聴者数は伸びている。音楽の力は信仰の伴侶として人々を繋ぐと信じる。



名取教会員

盲伝70周年記念感謝会に出席して

11月22日、戸山サンライズ（新宿区）にて開催された、日本盲人キリスト教伝道協議会（議長・田中文宏。略称「盲伝」）の創立70周年記念感謝会に出席した。盲伝は、ヘレン・ケラー氏の日本における視覚障がいのキリスト者に対する祈りと支援によって、1951年に誕生した超教派の伝道団体である。

私は神学生時代に、盲伝婦人部が創設した「東京サフランホーム」（視覚障がいの女性たちの生活と職業の自立支援施設）で、マッサージ等の往診の際の車での送迎のバイトをした。それがきっかけとなって盲伝の集会に参加し、秋田の教会に赴任してからは東北盲信徒会に所属して、40年を越える交わりをもたせていただいている。

この度の70周年記念感謝会であらためて思わされたことは、私はこの盲伝における視覚障がいのキリスト者の方たちから、生涯ブレることのない信仰の姿勢を教えられ、牧師として育てていただいているということである。隣人と共に歩むということはたやすいことではない。しかし、ここに本当に隣人と共に歩んでいる信仰者がいるという多くの証しを見させていただいている。

盲伝においても、高齢化やコロナ禍の中での活動の困難さといった課題はあるが、今この時も、盲伝に連なる一人ひとりの信仰者の力強い歩みがなされていることを覚えていきたい。

（教団総会議長　雲然俊美）